



生活クラブ風車



夢風News

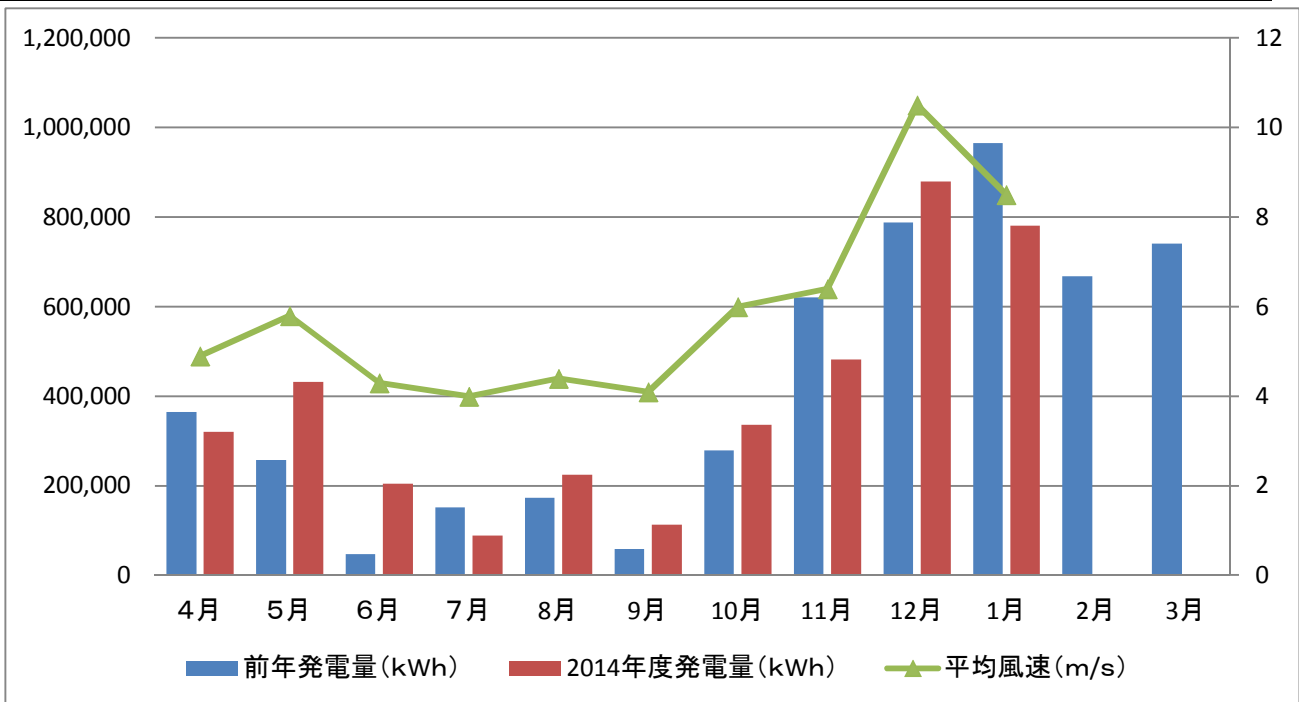
Vol.32

●発行 2015.2.15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩（代表理事） ●編集責任者 鈴木伸予

■ 2014年度 発電実績 ■

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用 率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風 速 (m/s)	設備利用 率 (%)
4月	320,524 【88.0%】	4.9	22.4	10月	335,268 【120.2%】	6.0	22.6
5月	431,507 【167.3%】	5.8	29.1	11月	481,824 【77.6%】	6.4	33.6
6月	201,904 【440.5%】	4.3	14.3	12月	879,287 【111.6%】	10.5	59.4
7月	87,899 【58.0%】	4.0	5.9	1月	780,558 【80.9%】	8.5	52.7
8月	223,914 【129.3%】	4.4	15.1				
9月	112,694 【191.3%】	4.1	7.9				



○1月も好風況に恵まれ順調に稼働しました。発電量も、前年には届きませんでしたが、計画は上回っています。

○1/4に発電所（夢風）と変電所（東北電力）の間で系統事故が発生したため運転を停止しましたが、翌日には復旧しました。また、1/26に東北電力の要請により解列を行いました。

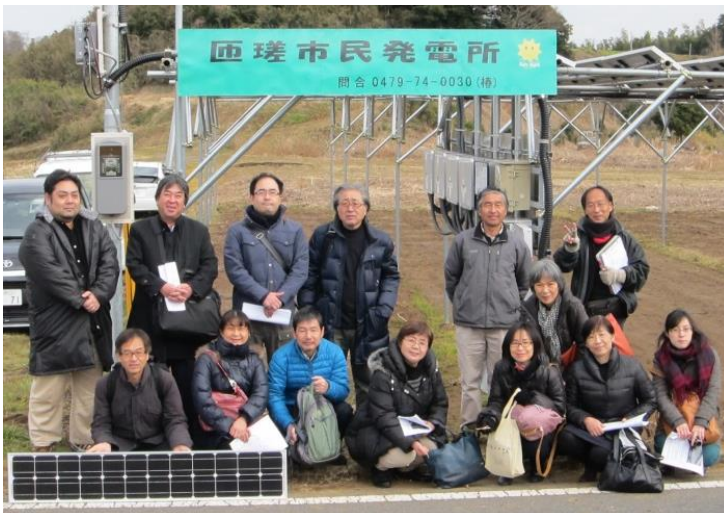
■ グリーンファンド秋田理事会 報告

2015年1月26日に2014年度第3回グリーンファンド秋田の理事会を開催しました。

第3四半期(10月～12月)の決算報告を承認しました。10～12月の売電量は162万5,905kWhで、売電売上は計画比105.3%、前年比100%の実績となっています。

生活クラブ風車「夢風」の電力需給契約の切り替えを承認しました。2015年4月より「夢風」の売電先を、一部、(株)生活クラブエナジーに切り替え、生活クラブ事業所や福祉施設などに供給します。また、にかほ市との2015年度の交流計画、生活クラブエナジー設立記念フォーラムへの協賛などを承認しました。その他、にかほ市との連携推進協議会幹事会報告、役員改選に伴う対応などを確認しました。

■生活クラブ首都圏4単協自然エネルギー推進PJで学習会を開催しました Part 3



後列右から東さん、椿さん

1月24日(土)に、首都圏4単協より13名の参加で、市民エネルギーちば合同会社の千葉県匝瑳市飯塚のソーラーシェアリングの圃場視察と学習会を行いました。

東京駅から特急で1時間と少し八日市場駅に到着。さらにタクシーで10分ぐらい内陸に入り、飯塚第一発電所に到着。

市民エネルギー千葉の代表の東光弘さん、実際にここで耕作をされている椿茂雄さんに熱心に対応して頂きました。ここでは、圃場の上に藤棚のような架台を組んで、そこに

隙間を開けて薄型の太陽光パネル501枚を設置しています。簡易な構造ですが、この地域で使用されて単管パイプを調べたが30年は耐久性

があるとのことでした。また、隙間とパネルの比率は2:1と隙間が広くなっていて、作物に十分太陽光が届くようになっています。去年はパネルの下で大豆を栽培し、十分な収量が得られているとの事です。

また、パネルオーナー制度についてお話を聞きました。若者などお金に余裕のない人にも「市民発電」に参加してほしいと、パネルオーナー制を選択しました。この仕組みは、パネル(1枚2.5万円)を販売し、そのパネルをオーナーから借り受けて、売電収入から賃料を支払うというものです。毎年2,000円の賃料が10年間で20,000円、10年経った時にパネルを売却すると(買取価格10,000円)、合わせて35,000円となり、10年間で5,000円お得になるというものです。お金が地域に回って地域の活性化をすすめるために、賃料の支払いを現金ではなく、味噌などの産物で受け取ることを選択できるように考えています。



また、収穫祭や味噌づくり体験などのイベントも企画していきたいとの事です。

今回の視察を機に、今後、生活クラブでもソーラーシェアリングについての検討議論をすすめて行きたいと思ひます。

■生活クラブ埼玉 にかほの産物を取り組みました!

生活クラブ埼玉で、風車「夢風」を縁とした地域間連携の取り組みとして、にかほ市の特産品の共同購入を初めて行いました。

埼玉では特産品のセットではなく、組合員に申し込みカタログ(L I V E L Y)を配布して、それぞれ注文するやり方で注文を取りました。

取り組んだ特産品は、でんべいかれい生産グループのハタハタ甘露煮、佐藤勘六商店のいちじく甘露煮、伊藤製麺所の象潟うどん、飛良泉のお酒2種類です。

伊藤さんの象潟うどんは、生活クラブの指定原材料の国産小麦に切り替えたものです。今までに比べて、麺がほんの少し茶色くなり、国産小麦の味になっています。

佐藤さんのいちじく甘露煮も砂糖を素製糖に、水飴をGM(遺伝子組み換え)フリーの甘藷でんぷんの水飴に切り替えています。素製糖の独特なこくが出て、今までとは違う良い味に仕上がったと言ひます。

1月末に特産品が組合員宅に配達されています。組合員の方の感想や評価をいただき、今後の取り組みにつなげていきたいと思ひます。



■生活クラブ首都圏4単協 事務局リーダー研修 報告 Part2

～23区南生活クラブ 高木一臣 事務局次長の研修レポートより抜粋～

脱原発なら市民風車でしょ!

脱原発として一番有効な手段は、デモでも節電でもなく(これらも重要ですが)、自然エネルギーで電気を発電することだと僕は思ひます。巨大設備と利権で富を集中させる原発村にとってこれが一番の打撃です。あの手この手で自然エネルギーのネガティブキャンペーンをやっていますよね。太陽光は作りすぎたとか(←まだまだ足りません)、風力は音がうるさいとか(←騒音問題にならない適地はたくさんあります)。経団連系の人たちにとって、原発という独占資本が解体し、地域分散型の自然エネルギーが増えることは、避けたい事態。もしあなたが今の経済体系に不満があるなら、自然エネルギー建設にかかわることです。地域密着かつそれぞれがネットワークでつながる新しい経済を作る重要なカギを握っているのです。

そして、生活クラブが建設した風車は、他の風車と趣が違います。何が違うのか?

にかほ市がある秋田県は自然エネルギーの推進県で（原発は一基もありません）、飛行機上からも無数の風車を見ることができます。国道7号線は、日本海側の県にとってはなくてはならない大動脈ですが、秋田空港から国道7号線を南下すると、そこから海側に風車が2本立っているのがよく見えます。これはかなり目立っていて、1本がワタミ、もう1本が生活クラブです。この2本、建っている姿は似ていますが、地元での受け止め方は大きく違います。ワタミは大手企業の資本で立てられたもの、生活クラブは市民の基金で立てられたもの。市民発電なのです。

今回の研修では、市の職員や特産品の生産者、風車の土地の地主さんなど総出で歓迎していただき、風車が産み出す関係性が非常に地元の人たちに受け入れられていることが実感できました。

また、研修講師として参加された、元生活クラブ職員で今や市民自然エネルギー事業の第一人者となった鈴木亨さんと交流が持てたことが非常に刺激的でした。生活クラブ釧路立ち上げの話を伺ったのが20年前くらいでしょうか？それ以来の憧れの人です。「生活クラブは世の中の問題を指摘し、対案を出し、社会化するところですよ」なんてさらりと言う。「対案を出す」くらいまで誰もがよく言いますが、「社会化する」とまで踏み込めるのは鈴木さんならではの実績の裏打ちがあるからだと思いました。

■生活クラブエナジー設立記念フォーラムを開催します

生活クラブでは2013年に「減らす」「つくる」「使う」を柱としてグループのエネルギー政策を決定しました。2014年10月20日にエネルギーを選択して使い、自然エネルギー電力の利用をすすめていくために生活クラブの電力会社「生活クラブエナジー」が設立されました。この設立を記念して、3月16日に、ドイツよりベルリン自由大学のミランダ・シュラーズ教授を迎えて記念フォーラムを開催します。

グリーンファンド秋田もこのフォーラムに協賛しています。

エネルギーを市民の手で自治しよう！～電気の共同購入をスタートしよう～

日 時：2015年3月16日(月) 13:00～16:30

会 場：東京ウィメンズプラザ・ホール

第1部 記念講演

ミランダ・シュラーズ / ベルリン自由大学教授・ドイツ倫理委員会委員

第2部 パネルディスカッション

コーディネーター：丸山 康司 / 名古屋大学大学院環境学研究科准教授

パネリスト：清水 泉 / 生活クラブ埼玉 理事長、

佐藤 彌右衛門 / 全国ご当地エネルギー協会代表幹事・会津電力㈱代表取締役、

加藤 好一 / 生活クラブ連合会 会長、半澤 彰浩 / (株)生活クラブエナジー 代表取締役、

ミランダ・シュラーズ教授 総 評 村上 彰一 / 生活クラブ東京 専務理事

主 催：生活クラブ連合会、(株)生活クラブエナジー、生活クラブ共済連

協 賛：生活クラブ親生会、一般社団法人 グリーンファンド秋田、市民セクター政策機構

協 力：認定 NPO 法人 環境エネルギー政策研究所

